白糸台地における文化的景観の活用に関する研究

Study on use of cultural landscape in Shiraito plateau

熊本大学工学部社会環境工学科　　畔津　伸彦

1. はじめに

本研究では、文化的景観の本質的価値をわかりやすく示し、地域全体の活性化・暮らしやすさにつながるような活用策を提案することを目的とする。白糸台地の文化的景観を対象に、価値構造を示すために構成要素の繋がりに着目した点、共有を目的として外部の評価と地域住民の認識双方に着目した点に特徴がある。

2. 白糸台地における文化的景観の構造

対象地の文化的景観の特徴を把握するために、文化的景観の構成要素を整理し、価値構造の可視化を試みた。具体的には、文化的景観の構成要素を「生活文化」「歴史資産」「土木施設」「自然環境」の４つのレイヤーに振り分け、要素間の関係性・繋がりについて考察を行った（表１）。その結果、白糸台地の文化的景観の特徴は、４つのレイヤーと要素間の繋がりで構成されていることがわかった。

3. 地域住民の景観認識と文化的景観の関係

3.1　地域づくりにおける地域民の認識の重要性

重要文化的景観の選定を機に、白糸台地の棚田が注目を集め、現在外部の認識が変わってきている。活用に向けて地域住民と認識を共有するためには外部の評価だけでなく、現在の地域住民の認識について整理しておく必要がある。

表１　文化的景観構成要素表

生活文化

地区	名称	
白糸台地全域	農地	棚田（水田）、畑地、茶畑
	集落	台地内に11集落
	生物	アブラボテ、マツカサガイなど

歴史資産

地区	名称
小原	小原遺跡、六地蔵、布田神社、御子屋、御子屋大杉
犬飼	逆修板碑、若宮神社、犬飼大イチョウ
新藤	造化天神のいちいがし、村屋敷神社、新藤南遺跡、松出遺
白石	居屋敷神社、岩丁場
相藤寺	相藤寺の石畳、長尾豊前の墓、矢部城
白糸台地以外	こぶれがし

土木施設

地区	名称	
白糸台地全域	用水路	上井手、下井手、余水吐、分水箱
小原	通潤橋	
白糸台地以外	その他	取水口、円形分水、通潤橋

自然環境

地区	名称	
白糸台地全域	河川	五老ヶ滝、笹原川、千滝川、緑川
	里山	杉、共有林

3.2　地域住民による地域資源の把握状況

地域住民の景観認識を整理するために、ワークショップでの成果をもとに、３集落に着目し、２章で提案した４つのレイヤーを適用し、可視化を試みた。

3.3　地域づくりにおける文化的景観の役割

3.2 で抽出された要素と２章で抽出された要素との比較分析を行った（図１）。その結果、要素数の増加が見られた。特に固有名詞の増加や、「生活文化」の要素数の増加、類似点や要素の重複などの特徴も見られた。考察の結果、地域資源も文化的景観の資源であり、地域独自の生活様式を表すことがわかった。また活用に際し、地域の生活への理解が必要だと言える。

4. 文化的景観を活かした地域づくりに関する考察

現在、「通潤用水と白糸台地の棚田景観」を活かした地域づくりが動き始めている。本章では、白糸台地での観光の方針を整理し、実践として津留ヶ淵道における観光のあり方を提示した。その結果、文化的景観の価値共有に関して、要素間の繋がりを活かしたルートづくりが必要であることがわかった。また、地域住民との交流が「ものがたり」を際立たせると考える。

5. おわりに

本研究では、文化的景観の本質的価値を可視化し、地域住民と共有しうる活用策を提案した。

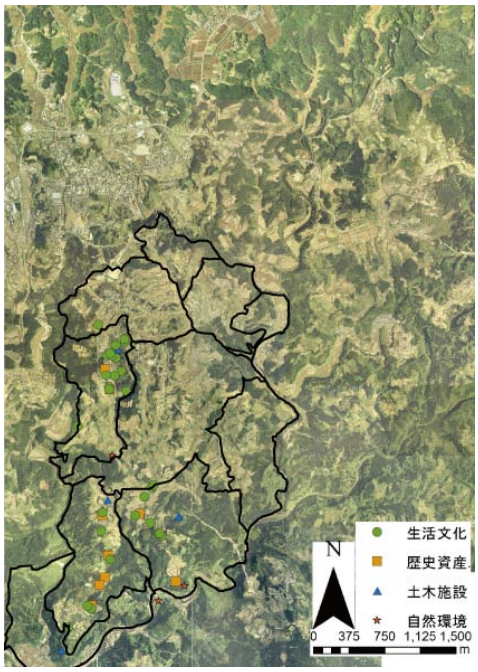

図１　地域資源の位置図